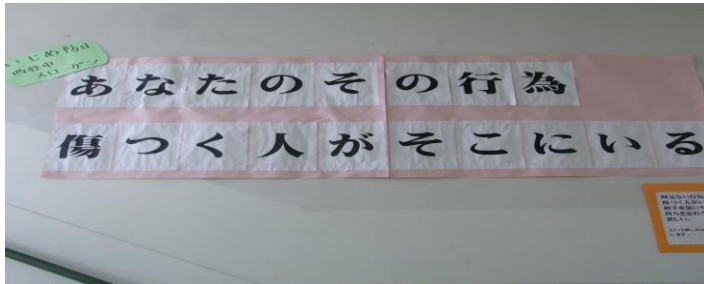


いじめについて考える

校長 佐野 眞吾

近年の東京都の調査によると、今まで悪口など口頭によるいじめを受けたことがある生徒が7割を超えるという結果が出ています。いじめの内容と割合は①ひやかしやからかい、悪口脅し文句、嫌なことを言われる。(57.4%) ②軽くぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。(15.5%) ③仲間はずれ、集団による無視をされる。(10.3%) ④パソコンや携帯電話などで、誹謗中傷や嫌なことを言われる。(8.9%) ⑤金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。(8.6%) ⑥ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする。(6.7%) ⑦嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする(6.0%)という結果でした。

西谷中学校では以前からいじめ指導に取り組んでいますが、今回横浜市全体でいじめについて再認識し、いじめ防止の取り組みを強化することになりました。今年度から12月を「いじめ防止啓発月間」とし、いじめ防止ののぼりを持って毎朝生活委員が校門付近に立って挨拶を呼びかけています。また、生徒会の全校委員会ではいじめを防止するための話し合いが行われ、いじめ防止のスローガンが決められ校舎内に掲示されています。



「何気ない行為で傷つく人がいます。相手を思いやる気持ちを忘れないで欲しい。」
という思いが込められています。

普段の何気ないちょっぴりからかいがいじめにつながっていくという認識といじめは許さないという決意を持ち、周りの人に関心を持って欲しいと思います。保護者の皆様も関心を持っていただき、学校、学年、そして生徒の考え方を理解され、支援していただくと幸いです。

昨年2・3年生には全校集会で話したことですが、思春期特有の特徴として次のようなものがあげられます。

1 忍耐力があまり無い

2 打たれ弱い

3 ストレスをためやすい

4 キレやすい

5 横並びで皆が一緒だと安心 などの特徴があります。

この5番目の特徴「皆が一緒」ということは現実にはあり得ないことです。100人の生徒がいたら100人が皆、顔や体格、性格や行動、能力まで違うのが当たり前であり、「皆違って良い」ということが基本だと思います。違うから排除するのではなく、違うからこそコミュニケーションを深め、互いに相手を理解しようと努力することが大切です。

「自分がされて嫌なことは人にもしない。されて嬉しいことを人にもする。」これも対人関係の基本だと思いますが、それをさりげなくできる人は最高に素敵ですね。

新聞に投書された文章です。伝えたい内容が記載されていたのでご紹介します。

いじめに加担しなかった私

41歳女性

連日のように新聞で「いじめ」の文字を見て、思い出すことがあります。中学2年の2泊3日の野外教室でのこと。1日目の夜、女子二人がクラス的女子を一堂に集めて「A子が生意気だから皆で無視しよう」と言った。私はA子と仲が良かったわけではない。話もあまりしたことがなかった。しかし、「中学の大切な思い出となる日にそんなことはしたくない」と一人憤慨し部屋を出て行った。その後A子は私のそばにいたような記憶がある。

私はクラスでおとなしい方で、目立つ存在ではなかった。そんな私の反発に、言い出しっぺの二人は驚いただろう。しばらくして学校で私の体操服がなくなる出来事があった。しかし、私が動揺せずにとらりと流しているうちに周囲のざわめきは収まった。

野外教室の一件は当時の親友にも話せなかった。しかし、あの夜の行動は新しい自分を発見し、大きな自信となり、今の自分につながっている気がしている。

35年ぶりにいじめっ子と再会

40代

小学校の同窓会で、35年ぶりに私をむごくいじめた男子と再会しました。彼は私を見つけると、真剣に、繰り返して、謝り続けた。その瞬間まで、傷ついた心の中に「許せない」という思いが残っていた。だが、いじめは彼にとっても家庭内で鬱屈（うっくつ）した気持ちを抱えるがゆえの行動だったことを知っている。

だから、謝り続ける彼に「謝ってくれてありがとう。もう忘れなさい。」としか言葉は掛けられなかったが、心底、抱えてきた気持ちを手放して、幸せに未来を歩いて欲しいと願っている。

私はいじめに何年も耐え続けた。彼もその後いじめられて気づいたという。耐えているときは、それが永遠に続くように思え、死をも考えたが、35年後の私の人生は決して悪くない。

今日彼を許せる気持ちになれたことがうれしい。人生は死にたくなるようなできごとが襲ってくることもあるが、諦めなければこういう日も巡ってくるのだ。



←まちの人と関わるきっかけをつくります。



自分からコミュニケーションをとり→
相手と分かり合えるようにします。